

過去約3年間の民主党政権時代にコロコロ変わったのは首相だけではない。法相が8人、拉致問題担当相が7人、消費者担当相が9人、少子化担当相に至っては10人も登場した。その他のポストも6人以上なんてのはざらだ。たまたま東京都知事選も行われたが、実は東京都知事は現在の猪瀬直樹氏を合わせても、1947年の初代安井誠一郎以来7人しかいない。いっぽうで同じ期間に首相は32人も登場し、米大統領でさえ12人であるにもかかわらずである。

さらに驚くべきは都知事の権限の凄さだ。都民の直接選挙で選ばれた都知事は、政権与党の代表が就任する首相と違い、“しがらみ”がなく根回しが必要ないため独断で政策を打ち出せる。さらには解散権まで有し、参院を解散出来ない首相や、そもそも解散権を持たない米国大統領より強い。

おまけに彼がリードするのは1300万人都民や企業が生み出す“都内総生産”が85兆円という東京都であり、これはGDP74兆円の韓国をも凌ぐ。つまり都知事はGDP世界14位の“東京国大統領”なのだ。うつむきがちな今の日本にこんな凄い“国”と大統領がいたとは何とも心強い。

聖書の列王記には亡国の危機迫る北イスラエル王国において、コロコロ変わる王が列挙されており、中には7日間だけ在任なんてのもいて今の日本よりヒドイが、神自身は

「主は国々のはかりごとを無効にし、国々の民の計画をむなしくされる。主のはかりごととは
とこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。幸いなことよ。主をおのれの神とする、その国
は。神が、ご自身のものとしてお選びになった、その民は。」詩篇 33 篇 10-12 節

と釘を刺している。換言すれば祝福も滅亡も神次第であるということだ。今一度、強い東京国とリーダーを神が日本に下さったことを覚え、彼に感謝しよう。

